

令和6年度 第3回能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の概要

○日 時 令和6年12月26日(木)午後2時00分～4時00分

○場 所 能代山本広域交流センター 第一研修室ほか

○案 件

(1)第2期能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略における数値目標・重要業績評価指標(KPI)、重要検証指標の概要及び達成状況について

(2)次期総合戦略の策定について

・次期総合戦略骨子案についての意見交換

○内 容 3グループに分かれ意見交換 70分

<総合戦略会議での意見交換の概要>

グループA

■ 班別意見交換の主な意見

1. 骨子案に対する各委員の意見等

洋上風力や次世代エネルギーを活用していくことに注力するべき

当市の名産品をしっかりとPRしていくことが重要

若者の減少を防ぐためには、U・Iターンなどで戻ってきたいと感じてもらうことが重要

婚姻数を増加させるためには、地域ぐるみでの出会いの機会が必要

安心して出産、子育てができる環境づくりが必要

観光客を受け入れるためには、宿泊施設の充実が必要

2. 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり(人口減少抑制のための取組)

住みやすいと思われるためには、住環境や交通インフラの充実が重要

市民の暮らしやすさ向上のために、性別役割分担意識の解消が必要

② 郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

スポーツやエネルギー等当市の強みを前面に出すことが良い

3. 地域ビジョン（目指すべき将来像）

「エネルギー」や「風」など、当地域に当てはまるキーワードが望ましい

■ 班別意見交換の議事概要

① 骨子案に対する各委員の意見等

（基本目標 1）

洋上風力や次世代エネルギーを活用していくことに注力すべき

- 洋上風力や水素などの次世代エネルギー関連の地元の雇用が伸長していないという報道がある。こうしたもて、より良い方向に進めていくための検討をしていかななくてはならない。
- 能代高校では探究活動のなかで、エネルギー関連の研究を行っている。具体的には、二酸化炭素を回収して地下に貯留する技術(CCS)の能代での実現可能性について。水素発電と生活との関係、世界との比較など、多くの学生が興味をもっている。
- 洋上風力の視察関連の観光客が多いため、そこにアプローチしていく必要。また、風力発電関連の雇用創出については、発電白神ウィンドウは陸上に設置しているため、メンテは地元で賄うことの実現性が高いのではないかと思う。ぜひ地元企業の参入に期待したい。
- 世界の洋上風力と比較して考えるのは良いこと。未来につながるのではないか。

当市の名産品をしっかりと PR していくことが重要

- 戦略作物 5 品目(キャベツ、ミョウガ、山ウド、ネギ、アスパラ)について、一部の作物において生産量が減少している。この現状に鑑み、能代高校での探究活動において、作物のブランド化の必要性について検討したことがある。

（基本目標 2）

若者の減少を防ぐためには、U・I ターンなどで戻ってきたいと感じてもらうことが重要

- 高校生の就職希望者が卒業生の 3 割程度の状況。卒業生の 7 割が進学することを踏まえると、市外に流出が多くなっている。彼らに就職のタイミングで戻ってきてもらうために、ニーズにマッチした雇用を創出する必要がある。高校卒業後に就職する人へのサポートが必要なのは理解しているが、重点を置いて取り組むのは、U・I ターンをいかに増やすかという点。
- 洋上風力関係の雇用が創出された場合、風向きが変わる可能性がある。
- 能代市の高校生は、1 学年に 400 人程度おり、うち 100 人が高卒で就職している。進学先の内訳について、私の勤務している能代高校から大学進学している生徒の内訳は、人文系が最も多い。他方で、工学系に進学する生徒も相応にいる。このような進学先に鑑みて、ターゲット設定を行い、当市への回帰を促すような取り組みがあるとよい。
- 当市では、薬剤師の需要が高まっていることを受け、一定の回帰がみられる。考え方として、大学卒業者だけでなく、専門学校卒業者などの回帰策についても検討が必要と考える。
-

(基本目標 3)

婚姻数を増加させるためには、地域ぐるみでの出会いの機会が必要

- 出会いの創出に関して市は尽力しているが、婚姻数が伸びてこない状況。
- 周囲の未婚者の話を聞くと、出会いがないという声が多い。
- 一昔前は、地域の中に世話役がいたので、世話役が未婚の男女の紹介を担っていた。現在は、地域に世話役も 20-30 代もいないので、このような事例はなくなっている。
- 街中で遊んでいる若い人が少ないと感じる。最近では、夜遅くまで飲んでいる人をみると 40 歳以上が殆ど。外へ出て仲間を増やすという感覚がなくなっているのではないかと感じる。
- 出会いを希望しないものは仕方がないが、出会いを求める人に場を提供していく必要がある。

安心して出産、子育てができる環境づくりが必要

- 兵庫県明石市を訪れた際、子どもが多く活気がありすごく元気なまちと感じた。子育て支援に力を入れているということで、そこは当市でも取り入れられるのではないかと感じる。
- 秋田県立羽後高校にて給食の提供を開始した結果、生徒が増えた。有償だが 1 食 200 円程度となっている。
- 昔は、若いときに子を産み、老後に自分の時間を取るという文化であったが、晩婚化が進むなど状況が変わる中でどうしていけばよいのかを検討しなくてはならない。

(基本目標 4)

観光客を受け入れるためには、宿泊施設の充実が必要

- 当市に宿泊しようとしてもホテルが取れないという声が聞かれている。
- 当市のホテルに宿泊できず、当市を訪れる際も秋田市に宿泊する人がいる。
- 民宿もあるが、ネットに掲載されていないため宿泊者が少ない。
- 令和 8 年に当市にて全国高校文化祭があるが、訪れる人がどこに泊まるかは悩みの種。

② 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり（人口減少抑制のための取組）

住みやすいと思われるためには、住環境や交通インフラの充実が重要

- 女性や若者が望むのは住みやすい環境だと思う。市民の交流や交通の便の良さは住む基準になる。

市民の暮らしやすさ向上のためには、性別役割分担意識の解消が必要

- 能代の男性は家事をしない印象がある。子どもを女性一人で育てるのは難しいので、男性にも手伝ってほしいと思う。そのためには、育児を苦痛と思わないような環境づくりが重要となる。

② 郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

スポーツやエネルギー等当市の強みを前面に出すことが良い

- 当市は小野喬氏や山田久志氏などの著名スポーツ選手を輩出している。また、バスケットボールが強いところという印象もあるので誇らしく感じている。

- 次世代エネルギーへの取り組みに強みがあるので、誇りに思っている市民もいると思う。

③ 地域ビジョン（目指すべき将来像）

「エネルギー」や「風」など、当地域に当てはまるキーワードが望ましい

- 風力や水素など次世代エネルギーがよいと思う。また、当市は風とやさしさの町という印象もある。
- 風力や水素などの次世代エネルギーが望ましい。

グループB

■ 班別意見交換の主な意見

1. 骨子案に対する各委員の意見等

域内経済だけでなく域外の力を活用するためにも、企業誘致の観点は重要
各種取組は、関係団体との連携を意識しながら推進することが重要
地域の防災意識の向上や取組を推進していく必要

2. 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり（人口減少抑制のための取組）

エネルギー関連産業の周知や地元で働き続けることのできる環境整備が重要
若年層の移住のきっかけとするためにも、転入者の経験談や取組等の発信が必要
市の取組を可視化して、住民に広く発信していくことが必要

② 郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

地域行事の運営に若年層を巻き込みつつ、愛着心を深めていくことが必要

3. 地域ビジョン（目指すべき将来像）

「ゆとり」や「安心」など、当地域にしか当てはまらないキーワードが望ましい

今までは若年層を意識した取組が少ない印象であるため、子育て等の観点も組み込んでほしい
森林や豊かな自然の観点を組み込んでほしい
安全安心な地域づくりに向けて、高齢者のデジタルデバイド等を意識した観点も重要
他地域との違いを意識した上で、能代の良さを打ち出すことが望ましい

■ 班別意見交換の議事概要

① 骨子案に対する各委員の意見等

域内経済だけでなく域外の力を活用するためにも、企業誘致の観点は重要

- 森林組合の立場から言うと、木材の販路が少ないことに問題意識があり、森林組合として販路を拡大するために企業誘致に関与した経緯がある。こうしたことから、誘致の観点は重要と考える。

各種取組は、関係団体との連携を意識しながら推進することが重要

- ふるさと教育は重要と考えている。今回の総合戦略の骨子にもその観点が含まれており、良いと思う。子どもたちに地元は良い場所と実感してもらうことが大事。当地域の行事や文化の良さだけでなく、地元企業の良さも認識してもらうためにインターンシップの推進、地元企業の PR も進めてもらえればと思う。また、骨子案に記載のある事業承継について、市役所の商工労働課で事業承継関連の取組をしていると思うが、商工会でも事業承継セミナー等を実施しており、取組の重複間があるため、市役所と商工会で連携できる部分は連携してやっていければと思う。そのほかの取組においても、各関係団体との連携を意識して実施していくことが望ましいだろう。
- 能代青年会議所では、基本的には地域課題の解決を目的に各種行事等に取り組んでいる。各関係機関と連携できる場所はパートナーシップを組み合わせながら取り組んでいきたい。引き続き地域と連携しながら進めていきたいと考えている。

地域の防災意識の向上や取組を推進していく必要

- 自治会の立場からいうと、地区の防災の取組が進まないことが問題。高齢化等を背景に地域の防災意識や防災の取組みが進んでいない。

② 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり（人口減少抑制のための取組）

当地域の強みであるエネルギー関連産業の周知や地元で働き続けることのできる環境整備が重要

- 人口減少によって電力の売上も右肩下がりであり、人口減少は問題と感じている。能代地域においては、風力発電も多いことからエネルギー関連産業に地元企業が踏み込んでいければ、働く場所の増加につながると思う。若年層にエネルギー関連産業に関心を抱いてもらうことで、地元定着を図れるのではないかと。
- 当社においても、若年層は転勤を嫌がる人が多く、避けられ始めているため、勤務地限定制度を設けた。地元の高校性を受け入れて、地元で働くことのできるような環境整備を会社としても取り組んでいる。このように、地元で働き続けることのできる環境整備が重要と考える。

若年層の移住のきっかけとするためにも、転入者の経験談や取組等の発信が必要

- 地域おこし協力隊の活動の中で、能代市以外から転入してきた方と多く出会ってきた。そうした方たちの中には、主婦をしながら仕事をして地域のために積極的に活動をしている女性が多いが、あまり知られていない現状があると思う。そういう方たちを紹介していけば、今後、移住してくる人たちのモデルになるのではないかと。子どもたちにとっても仕事に対して新しい視点が生まれるのではないかと。

市の取組を可視化して、住民に広く発信していくことが必要

- 質問にはなるが、能代市役所で具体的にどのような活動をしているのか、わからないところがある。具体的な取組内容が分かれば、議論が活発化するのではないかと。例えば、リモートワークやサテライトオフィス関連、デジタル関連ではどのような取組をしているか。
- サテライトオフィス関連では、本市の企業連携室が民間企業とのマッチング会に参加している。また、本計画とは別に DX 計画を策定しており、当該計画の中でデジタル関係の取組内容を記

載している。リモートワーク関連では秋田県で「リモートワークで秋田暮らしパートナー企業」認定制度を設けているが、本市関連は1件のみにとどまっており、市内企業におけるリモートワーク導入は進んでいない現状がある。（事務局）

- 市の取組みを可視化して発信することは、住民に対しても重要と考える。

② 郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

地域行事の運営に若年層を巻き込みつつ、愛着心を深めていくことが必要

- 郷土愛に関する取組は、地域を好きでなければ進められない。当地域を好きになってもらうように子どもたちに教育をして、能代の良さを実感してもらえそうな地域にしていかなければならない。
- 地域おこし協力隊の活動の中で、地元高校生たちと話す機会があるが、「能代が好き」と答える生徒は8～9割程度と多いと感じている。「のしろまち灯り」等の行事に、高校生も巻き込みながら地域全体で準備していく取組ができれば郷土愛の醸成につながるのではないかと。
- ある方の名刺に「今は、能代は好きじゃないけど、これから好きになりたい」という記載があった。行事等で若年層に郷土愛を深めてもらう取組も重要であるが、どのようにすれば若年層が主体的に能代を好きになっていくかという観点も重要と考える。

③ 地域ビジョン（目指すべき将来像）

「ゆとり」や「安心」など、当地域にしか当てはまらないキーワードが望ましい

- 最近、私は地元の能代に戻ってきた。能代は、ゆとりがあり、せかせかしていないところが良いと思う。「ゆとり」や「安心」などのキラキラしていないキーワードが良いのではないかと。都会にはないことを打ち出した方が良さそう。
- 当地域のマイナス面と捉えられていることも考え次第ではプラスに捉えることもできる。そうしたことをキーワードとして組み込めれば良いのではないかと。「夢」や「希望」等、どの地域にも該当するようなキーワードは必要ない。能代市にしか当てはまらないキーワードが良いだろう。

今までは若年層を意識した取組が少ない印象であるため、子育て等の観点も組み込んでほしい

- 能代地域の行事で赤ちゃんのハイハイレースを企画したが、今までこのような子どもが参加できる行事がなかったため、若い主婦の人から好評であった。こうしたことから子育ての観点も組み込むことが重要と考える。また、周囲の人たちの距離感が近く、意見を聞いてもらいやすい地域だと良いと思う。
- 若年層の発想は大事であるため、幅広い方の意見を取り入れた方が良さそう。

森林や豊かな自然の観点を組み込んでほしい

- 個人的には、第一次産業が基幹産業だと思っている。森林や自然の観点を組み込むことも重要だろう。

安全安心な地域づくりに向けて、高齢者のデジタルデバインド等を意識した観点も重要

- 私が居住する自治会も世帯数が減少している。このまま世帯が減少していくと、地域を維持できなくなるため、防災含め、安全安心な地域づくりに向けて真剣に考えていく必要がある。

- 防災の観点においては、風が強すぎると停電してしまう可能性がある。当社ではデジタル化が進んだことで仙台市や秋田市に有事の管理機能が集約されている。ゲリラ豪雨等の災害があったときの応援体制は整っているものの、そうした体制が有事に機能するか、不安なところはある。
- あらゆることがデジタル化してしまうと、高齢者がついていけなくなってしまうことも問題だろう。高齢者も対応できるような取組をしていくことが重要。
- 商工会では、「NPO 白神ねっと」が進めるコミュニティ FM 設立に向けた準備にも携わっている。この FM を使って、防災情報や地域の情報発信などもできる。
- 災害等の有事の際にこうした機能を活用できたら良い。高齢者にも分かりやすく安心であるため、そうした機能があると有難い。

他地域との違いを意識した上で、能代の良さを打ち出すことが望ましい

- 能代に長年住んでいる人は良いところに気づいていない。除雪の際に近所の人と雑談したり等、近隣住民との関係性の良さも良いところである。昔の当地域の状況と比べるのではなく、良いところを探していくことが望ましい。食やお酒など、当地域には魅力ある資源が多い。
- 地元企業の情報発信含め、能代の良いところを発信していくべきだろう。まだ広く知られていない能代の良さは多くあると思う。
- 他地域と、能代との違いや良さを探していくことが重要だろう。
- 生まれ育ったところの良さを話し合い、発信していくことで次の取組につながると考える。地域住民が郷土のことを真剣に考えていくことが必要。

グループ C

■ 班別意見交換の主な意見

1. 骨子案に対する各委員の意見等

- 林業従事者の定着に向けた課題解決が重要
- 一次産業の持続可能性の観点が重要
- 他の自治体の施策から好事例を抽出し、参考にすることが重要
- 公共交通の多様化に伴う課題への対応支援が重要
- 関係人口増加による生活への影響の可視化が重要
- 学校教育との連携による郷土愛・シビックプライドの成熟に向けた取組みが重要

2. 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり（人口減少抑制のための取組）

- 都市部からの U ターンに対する受入れが重要
- 女性が安心して生活できる環境づくりを進めることが重要
- 地場中小企業に向けた人材雇用制度の整備が重要

②郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

デジタル活用による生活基盤向上に向けた支援が重要

3. 地域ビジョン（目指すべき将来像）

女性に限定せず、だれもが暮らしやすいまちづくりを目標としてほしい

「ヒト」と「資源」の要素を組み込んでほしい

■ 班別意見交換の議事概要

① 骨子案に対する各委員の意見等

骨子案に関する質疑応答

- 骨子案の問題提起ではなく自身の疑問になるが、農業を1つの項目として策定している理由を伺いたい。JA 共済の存在があるため金融機関は農業法人との取引が少なく、農業を特別視するイメージがあまりない。例えば、農業を1つの項目とするならば、再生エネルギー等の他産業も1つの項目として策定してもよいのではないか。
- 秋田県自体が農業大国としてアピールしていることもあり、農業で1項目を割り当てている。産業として注力する意味合いである。（事務局）
- 秋田県が農業をアピールしたいことは理解している。一方で、秋田県は東北6県の中で農業産出量が最下位である。東北6県の中での順位を押し上げたいのであれば、秋田県自体が農業に対する働きかけをすべきと考える。
- 農業を維持することで、食料を確保するという観点であれば秋田県は強いと考える。農業は生活するための土台となるため、特別視しているのではないか。
- 地域として自立するために食を確保することは重要。他業種とは異なる扱いがされるのはそのような理由だと考える。（事務局）
- KPIの新規就農者数について、新規就農者の定義を伺いたい。土地を耕して農地を開拓するところから始まるのか。
- 新規就農者は法人に雇われる人数も含める。大規模に耕作する農業法人も増えている。独立による就農のみならず、農業法人に参画し、経験を積んで独立する流れもある。（事務局）

林業従事者の定着に向けた課題解決が重要

- 林業については伸び悩んでいると認識している。林業の関係者と話すと作業地域が遠く、県境まで行くケースもある。移動の負担が仕事の魅力を削ぐ要因になっているのではないか。作業場の近くにアパートを借りる等の対応しているようだが、移動距離が長い職場に対してどう考えるかも重要である。また、林業は社会にどのように貢献しているかが見えにくい職業でもある。林業従事者が出荷した木材をどのように使われているかを可視化し、仕事の重要性を認識できなければ責任感を持たないのではないか。

産業の持続可能性の観点が重要

- 第一次産業で課題となるのは持続可能性である。新規就農者数を第一次産業で押すのであ

れば、後継をどうするかも重要な視点になる。若者、子育ても能代に定着させるために重要な観点である。取組としては計画に入っているため、どうやって努力していくかが今後の課題

- 事業継承は病院も視野に入っているかが気になる。特に、産婦人科がなくなっているのも、女性の立場から存続してほしいと感じる。

他の自治体の施策から好事例を抽出し、参考にすることが重要

- 2070年の人口の将来展望をみると、どういった社会になるのか不安になる。移住の数字が増えているものの、人口減少、高齢化は避けられない。転出を減らし、転入を増やすために取組が必要。能代市より小さい市町村でも人口が増えているケースがあり、その施策を真似てもよいのではないか。自治会にも独身男性が多く、結婚、出産の流れが途絶えて、50代でも一人暮らしの件数が増えている。家庭を持つための土台作りが必要である。
好事例としては、移住者に住居スペース確保の支援をしている自治体がある。全額でなく一部負担でもありがたい。三種町も子育て世帯への支援が充実している印象を持っている。農業ではメロンをはじめ、様々な業種が盛んになり町全体が潤っている印象を持っている。取り入れられるものは取り入れたい。

公共交通の多様化に伴う課題への対応支援が重要

- 予約性乗合タクシー「コサクル」で公共交通の課題解決ができると思う一方で、アプリを利用する必要があることや使える場所が限られる等の課題がある。

関係人口増加による生活への影響の可視化が重要

- 一般の人が見たときに自分に関係のある項目が少ないと感じる可能性がある。関係人口が増えた結果、自分たちの生活がどう変わるかを可視化すべき。

学校教育との連携による郷土愛・シビックプライドの成熟に向けた取組みが重要

- 基本目標4の郷土愛・シビックプライドの項目は、計画の土台となる要素であり重要である。郷土愛・シビックプライドの成熟のために、小中高の若い世代への教育によって子供の親に対してもメッセージを発することが重要と考える。地域の住民が地域の資源、リソースの価値を理解して生活することが土台として重要な要素と考える。子どもに教育していても、親に情報が伝わっていない。親を含めた地域を考える取り組みでは、JAXAが来る数少ない地域という認識を初めて持ったという親の意見もあった。親世代にもアプローチすることで県外にでても戻ってくる可能性を高めることにつながる。
- .. 学校は指導要領によって時間割が決まっているため、中身をどうするかを検討する。小学生の職業教育に保護者が参加しているケースもあり、職業選択につながる。キャリアプランニング能力から自分で判断する力を養うことが地元回帰にもつながるのではないかと。（事務局）
- .. 文部科学省の取組でも、学校と連携した地方創生の取組が重要視されている。キャリア教育をした上で転出することは仕方ないが、キャリアを考えられていないのに転出の選択肢に固まることは防ぎたい。（事務局）

② 共通テーマ

① 女性や若者に選ばれる地域づくり（人口減少抑制のための取組）

都市部からの U ターンに対する受入れが重要

- 地元にも力のある企業があり、そこに就職してもらうことが望ましい。地元企業の PR で人材確保に努めることが重要。ただし、初任給等の条件面が課題になる。
- 給料をみて求人を決める若者が増えていると感じる。休みも重要視しているが、給料も重視している。例えば、熊本県で半導体関連の誘致により初任給が上がっている地域があり、出身地に関係なく若年層が就活しているケースも増えている。
- 若者にとって都会へのあこがれもある。転出させないことも重要だが、都会から帰ってくる流れを作ることも重要と考える。
- 都会で就職するとその後の選択肢が広いが、地方で就職すると一定の技術しか身につかずその後の選択肢が増えない可能性もある。都会から帰るのに受け皿を作ってあげる必要がある。

女性が安心して生活できる環境づくりを進めることが重要

- 自社は男女平等に仕事をしていると考えている。子供の体調不良で早退する場合に、周りの人間がカバーする風土になっている。女性だけでなく、男性であっても子どもの体調不良に対応して早退できる等、性別による役割分担の認識は薄れている。女性にとっては産婦人科の有無といった点のほうが重要ではないかと考える。小児科医がいないといった問題、産婦人科を存続するといった取組を通じて、女性が安心できる環境づくりを進めるべきではないか。

地場中小企業に向けた人材雇用制度の整備が重要

- 人材雇用に向けた諸制度の利用が少ない。厚生労働省のくるみん認定はハードルが高いが、チャレンジ雇用制度すら利用がない状況である。制度自体にメリットがないため利用が増えない。
- チャレンジ雇用制度を支援できる人も少なく、コンサルに頼るとコストが大きい。労力の割にメリットがないことは問題である。

② 郷土愛・シビックプライドの醸成（人口減少社会における地域のあり方）

デジタル活用による生活基盤向上に向けた支援が重要

- 故郷愛があり地元に残っている人がどう生活するかは考えるべき。テレビで見た情報だが、離島の高齢者でもタブレットで Amazon を利用して生活していると報道しており、生活に希望を持っている。金銭支援やタブレットの使い方指導等、自治体としてデジタル活用の支援ができるのではないか。

③ 地域ビジョン（目指すべき理想像）

女性に限定せず、だれもが暮らしやすいまちづくりを目標としてほしい

- 女性に限らず、それぞれの立場として暮らしやすいまちづくりがよいのではないか。「だれもが暮らしやすい」、「寛容な」といったキーワードを組み込んでほしい。

「ヒト」と「資源」の要素を組み込んでほしい

- 基本目標を見ていくと、活用すべき要素はヒトと資源に行き着く。ヒトは若者、女性、外国人といった多様な人材が活躍することが重要であり、資源は林業、農業のような地域の主となる産業が対象になる。
- ヒトと資源はキーワードになると考える。